

あなたに代わって質問します。

いわせ和子議会質問

暮らしの疑問、地域の困りごとをお知らせください。



平成29年3月定例会

○子ども達(中学生以上)に放課後の居場所を

質問 学習室のような場所が必要。現状と課題は。

(答弁) 市は、子どもセンターや子どもクラブ、冒険遊び場等の居場所づくりを推進中。今後は子どもクラブの整備を既存の施設の配置状況等を総合的に判断し進める。需要が高い7つの中学校区について優先的に整備を進め、2017年度は町田第三中学校区で子どもクラブの開設を予定。課題は、場所の確保や地域から理解を頂く事。

質問 鶴川第二中学校では昨年の夏から3年生を中心に寺子屋を開催。勉強を通じてポテンシャルの発揮とコミュニケーションも子ども達にとって心のよりどころとなっている。父兄から、ボランティアの方と校長先生に感謝の手紙が送られた。他の中学校でも放課後、図書館や空き教室の利用を。来年度以降の計画は。

(答弁) 文部科学省の「地域未来塾」を活用し地域の方による学習ボランティアを増やし、放課後学習教室を充実させ市内20校全ての中学校で実施する予定。定期的に実施し、より多くの生徒に学びの機会を提供し、1人1人の生徒の課題に合わせたより手厚い学習の場となる様にしたい。「地域未来塾」とは、2015年度、文部科学省が経済的理由や家庭の事情も含めて様々な理由で、家庭で学習が困難な児童、生徒への学習支援を目的に設置され、大学生や教員OB、NPO等、地域住民の協力により学習支援を実施する(国事業)

○小学校の授業時間の確保について

質問 遠征が無くなるのか現状と課題は。

(答弁) 市は、1週間当たりの授業時間数の増加、学校行事の精選、統合、家庭訪問から個人面談への変更等実施中。5、6年生の学校行事のハイキング等の遠征から社会科や理科の学習に関連させて実施する工場見学や自然観察等の校外学習に内容を見直し実施する学校が増えている。今後、新学習指導要領では英語教育の充実により、小学校3年生から6年生迄それぞれ授

業時間が年間35時間増え、その時間をどの様に確保していくかが課題。各学校では小

学校の1単位時間である45分を15分ずつ3回に分けて割り振る等の時間割の工夫や夏休みの短縮、土曜授業の増加、学校時間の精選、統合等により授業時間を確保するよう検討中。教育委員会では、遠征や移動教室等、学校行事を確保しながら、バランスのよい年間指導計画を確認して指導する。

質問 教育委員会の支援は。

(答弁) ①学校評価の取り組み。②教育活動の実施状況を調査し、町田市全体の状況を各学校に伝える事で次年度の教育課程を編成する際の参考にし、各学校が町田市全体の中でのバランスを考えて教育活動を編成できる様、支援をしている。

質問 子ども達の目標に立って、子ども達が楽しい学校生活が送れる様、授業時間の確保、学校行事の時間の確保、バランスのよい教育活動を。

○町田市をPRするために

質問 「ロコモ」の活用促進に向けた今後の取り組みと課題は。

(答弁) 市は、情報発信を効果的に進める為市民や事業者がイベント等で自由に利用できるシンボルとして、小中学生を中心とした市民による投票を行った結果、ロゴマーク、「いいことくらむまちだ」が選ばれた。町田の人と町のエネルギーが成長して、未来への可能性、市民の満足度や期待感が膨らんでいく願いが込められたもの。課題は、ロゴマークの認知、関心、理解を一層高めていく事。



質問 独自のLINEスタンプの作成を。

(答弁) LINEスタンプ等のシンボルをPR活動の手段として活用していく事は有効。LINEスタンプの作成の手順やルール、仕組み等を調査し導入に向けて検討を進める。

質問 (仮称)ふるさと町田大使の設置を。

(答弁) 町田にゆかりがあった町田が好きにな方にも自主的に観光、文化、スポーツ等の町田の魅力や個人のSNSや口コミ等で発信してもらっている。(仮称)ふるさと

町田大使も含め研究する。

質問 町田市も相模原市のノウハウを参考に「観光親善大使 事業の実施を。

(答弁) 市には観光コンベンション協会が任命する「町田シティーセールス隊」がある。町田市出身で市内在住の6人組のバンド、Brand New Waveというバンド。全国で開催しライブ、テレビの音楽番組等を通して町田市のPRをしている。今後も町田市観光コンベンション協会と共に、検討をする。

平成29年9月定例会

○鶴川駅南口の整備について

質問 今後のスケジュールは。

(答弁) 2018年度に都市計画変更、土地区画整理事業認可の取得を目標に協議中。東側エリアは、土地区画整理事業の換地設計を進め、2022年度に事業着手を目的に、西側エリアは、主要生活道路沿道の地権者の方々の同意を得るため説明を行い、2022年度に用途変更や地区計画の策定を目指す。その後、用地取得、道路整備を行う。

質問 地元や周辺の住民との話し合いを。

(答弁) 現在、町田市景観審議会に鶴川駅周辺再整備事業を諮問し、協議を始めた。審議会での議論を踏まえ、地元や周辺住民の意見を伝えながら町並みを決めていく。地元商店会、住民の方には、引き続き総会等の場を借りて丁寧な説明を行い情報発信しながら事業を進める。

質問 下水道整備を早急に。

(答弁) 東側エリアは、土地区画整理事業の手法を用い、公共下水道整備を進める。西側エリアは、能ヶ谷町内会からの要望である、小田急線鶴川2号踏切から鶴見川にかかる大正橋迄の町田市道鶴川203号線から汚水管の整備を始める。小田急線を横断し、北側に流す計画。小田急線を横断する区間は、現在、小田急電鉄(株)と協議中。203号線下水道整備工事着手は2019年度から予定。

○鶴見川クリーンセンターについて

質問 工事の現状、施設の概要は。

(答弁) 2015年9月から工事に着手。8つの水処理施設で日量4万5,500m³では処理に限界があり、2つの施設の増設工事を進める事で日量5万7,800m³の安定した処理ができる施設となる。今後、機械・電気設備工事を実施し、2018年度末に完了予定。現在の施設が採用している標準活性汚泥法では難しかった下水中の窒素、リンを削減する事が可能な高度処理と呼ばれる処理方法を採用した施設。今後

も良好な処理水質の確保に努める。

質問 この土地は、サッカー場、ドッグラン等、今迄も何度か利用が計画された。鶴見川クリーンセンターの未利用地の有効利用を。

(答弁) 過去に多目的広場として利用する事で国の承認を得たが、地元の方々の理解が得られずに中止となった経緯がある。本来の目的である町田市の下水道事業の為に使用に支障がない事、国の承認が得られる事、周辺住民の方々の合意形成等の諸条件が整った場合には可能である。

○介護予防・日常生活支援総合事業について

質問 町田市の取り組みは。

(答弁) ①市基準型②地域活動団体型③短期集中型と新たに3つのサービスが加わり、利用者の選択の幅が広がった。この事業は、多様なサービスを整えた事で利用者を選択肢が増え、自身に合ったサービスを利用する。

質問 地域活動団体型サービスに、会場の確保等、支援を。

(答弁) 登録団体に対し、活動回数により月額1万円または五千円を上限に補助する。補助対象となる経費は、会場の借り上げ費、講師謝礼、冷暖房費等の光熱費、消耗品等の間接経費で、町内会館や集会所、市民センター会議室等、会場の借り上げ費用は補助の対象となる。

質問 他市の状況、今後の予定は。

(答弁) 2017年4月の時点で同様のサービスを実施している市は、立川市、小平市、狛江市、清瀬市、西東京市、町田市のうち6市。登録団体は、町田市が最多。2017年度末にも同様の説明会、研修会を実施する。

質問 登録団体に対する取り組みの内容、課題は。

(答弁) 市では、2016年2月に現況調査を実施。結果、市内に20の生活支援団体があり課題は、担い手の不足、高齢化。生活支援を実施しているが、保険に加入していない団体が半数以上。生活支援活動を更に充実強化する為、2017年9月から生活支援団体同士のネットワークづくりや活動内容のPR、活動に必要な研修の企画実施等を行う生活支援団体ネットワーク事業を開始する。今後も活動団体を増やし、市民の地域参加、地域貢献を通じて地域全体の支え合いを進めていく。

要望 高齢者の通いの場の運営だけでなく、生活支援を行っている団体にも支援を。今後は少子・高齢化が進み、支援を必要とする高齢者が増加する。市民が住みなれた地

域で地域貢献につながる活動に参加し、地域の担い手になり、活躍してもらえ様に支援を。市民が生きがいを持って安心して暮らす事ができる町田市を。

平成29年12月定例会

○消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が施行され、この4年間の町田市及び町田市消防団の取り組みについて

質問 4年間の取り組みは。

(答弁) この法律は、消防団の強化及び地域における防災体制の強化を軸とし、もって地域防災力の強化に資することを目的としている。町田市消防団では、幹部団員による会議に於いて消防団の充実強化について検討。結果は、消防団長から報告いただいた、その内容を基に、町田市は消防団の充実強化に関する取り組みを実施している。

質問 2017年3月の法改正で準中型免許が新設され、最近普通免許を取得された人は消防車両の運転ができない(準中型自動車免許とは、車両総重量3.5トン以上7.5トン未満を18歳から運転できる免許の事)全国を先駆けて、新入団募集の為に、運転免許取得の優遇措置を講じるべき。

(答弁) この件は、国の法律改正による全国的な問題。今後も若い消防団員に活躍頂く為、国による財政的な支援が必要であるとの意見を、東京都を通じて提出している。東京消防庁によると町田市消防団は、2年間で3名の団員が消防総監賞を受賞した消防団は過去に例が無い！

○町田市庁舎の有効活用を

質問 1階コンビニエンスストア・カフェはどのように展開されるのか。

(答弁) 2018年4月以降は、コンビニエンスストアとカフェを同一事業者が貸付を行う。競合する商品も販売可能となり、また、各店舗の連携が強化されるため様々なイベントが展開できる。貸付料は、コンビニエンスストア、カフェともに客席を含め貸付面積に応じて徴収。更に、毎月の総売上額の一部が売上分配金として戻入となる。

質問 賑わいのあるレイアウトに。

(答弁) 現在のイベントスタンプをカフェスペースに移設、希少価値の高いワグンを展示する。庁舎の中にも自然のフィードをイメージさせる様な空間やデザインを考え、季節によるアレンジを行いイベント等を通して賑わいの創出を図る。

質問 「Wi-Fi」街だ君」の反響や効果は。

(答弁) TBSラジオ「森本毅郎・スタンバイ!」文化放送「く」にまるジャパン極



(きわみ)の番組内でそれぞれ取り上げられた。効果は、Wi-Fi環境の整備やデジタルサイネージでの庁舎案内による来庁者の利便性向上、Wi-Fi「街だ君」のアクセスポイント(フリーWi-Fi)を利用して、地域防災計画で定める一時滞在施設である市民ホールのWi-Fi環境を整備する予定で、帰宅困難者対策に寄与する。

質問 屋上花畑の有効活用を。

(答弁) 2017年4月から産学官連携で屋上花畑の管理を担当する屋上花畑ボランティアと屋上花畑のPRイベントの企画・運営を担当する学生ボランティアが中心となり、町田市緑化教会等の協力を得ながら運営する体制に変更し、経費の削減を図っている。屋上花畑で収穫した野菜は、市庁舎2階の食堂のメニューに活用。学生ボランティアが企画した「屋上花畑deお食事会」を開催。屋上花畑で採れた野菜や他の植物を活用し、「料理教室」や「ハーブティー講座」を開催。また、花畑の植物を活用した「クリスマスリース講座」を開催する予定。「まちかふえ」への出展。学生ボランティアが中心に、屋上花畑アースを出展。クリスマス形式で、屋上花畑で採れた花を押し花にし、職場体験の中学生と学生ボランティアが作ったしおりを配布。多様な世代の方に屋上花畑を知って頂いた。



○障がいのある方たちの親なき後は？

質問 現状と課題は。

(答弁) 障がいのある方が、地域で暮らす為の「住まい」の一つとして、グループホームがあり、グループホームが充実する事で親御さんもお子さん達が、引き続き地元の町田市で暮らせる事で安心される。この2年半で23施設、104人分増加。課題は、親なき後の暮らしのあり方は、障がいの種類や年齢等の状況により多様である為、個々のニーズに応じた障害福祉サービスの充実を図る。

質問 家族の思いや、本人の意見の反映を。

(答弁) 町田市障がい福祉事業計画(第5期)の策定過程に、障がい当事者の方や保護者の方も委員として参加し、協議会や部会で沢山の意見が出されている。今後、公聴会を実施し、より多くの意見を頂き市民ニーズの把握に努め、反映する。

質問 グループホームではなく、自宅で生

活を続けたいという方への支援を。

(答弁) 障がい福祉サービスの充実を図ることが必要。障がいのある方自身の生活には、ご本人の意向を充分にき取りながら進めていく必要がある。各障がい者支援センターが窓口になってグループホームや在宅での暮らしの相談を受けている。

質問 「親なき後」の相談は？

(答弁) 「親なき後」の相談には、障がい当事者の暮らしの在り方や、成年後見などの相談がある。必要とする方には、その制度へスムーズにつながる為に、「ひかり療育園」を案内し、成年後見制度の説明や相談、本人申し立ての支援を行っている。

要望 「親なき後」の生活は障がいのある方たちの状況により多様。相談内容も多種多様で、就労の事、お墓の事等、切実な相談を受ける。お墓の事となると、行政で全て解決できる事ではないが、親御さんにとっては、切実な問題。今後もグループホームの充実を進め一人一人の希望の応じた支援、きめ細かな相談支援を行い、「親なき後」障がいのある方たちが安心して生活できるよう、更なる取り組みを要望する。

○JK(女子高生)ビジネスについて

質問 「特定異性接客営業等の規制に関する条例」が平成29年7月1日から施行された。現状は。

(答弁) この条例の規制対象となる店舗はない。町田警察署では、飲食業や接客業を行う店舗がJKビジネスに発展しないよう、深夜0時以降に酒類を提供する店舗を中心に立ち入りを行い、従業員名簿の確認等を行っている。また、JKビジネスの被害防止のため、町田警察署管内の高校においてJKビジネスにまつわる危険性等についての講話を実施。市も、町田警察署と連携を図り、情報の共有に努めている。

質問 JKビジネスの防止キャンペーンの実施を。

(答弁) JKビジネスによる被害から青少年を守るために、どのような取組みができるか、町田駅周辺官民協働パトロールを共に実施している町田警察署や関係団体と協議していく。

要望 大きな事故や事件に巻き込まれる前に、JKビジネスによる被害から私達が彼女達を守らなければいけない。教育委員会にも協力頂き中学生・高校生にもパンフレットを配布し親御さんにも周知する事を要望する。

皆様の声を形にします。いわせ和子におまかせください！

※質問事項を要約して報告させていただきました。詳しくはホームページをご覧ください。